

観光業

業況、売上、採算

今期（2022.10～12）の業況判断DIは55.8で、前年同期(2021.10～12)と比べ98.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

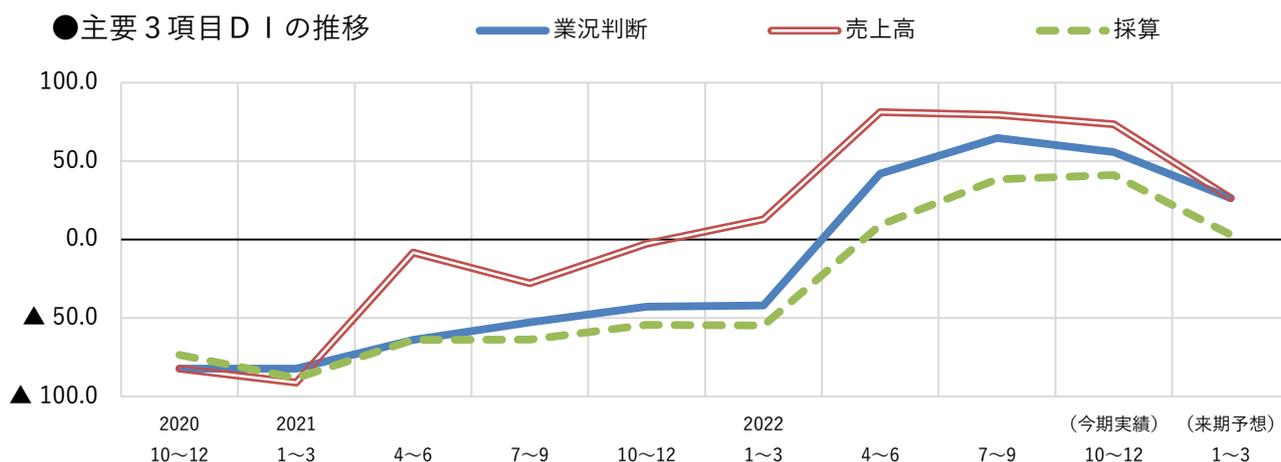
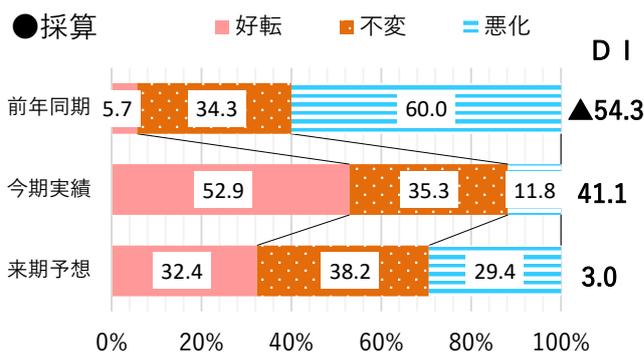
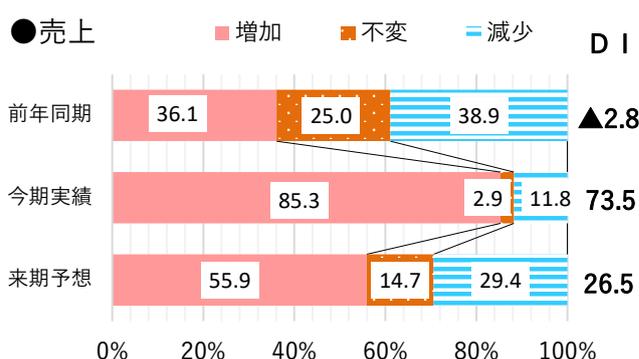
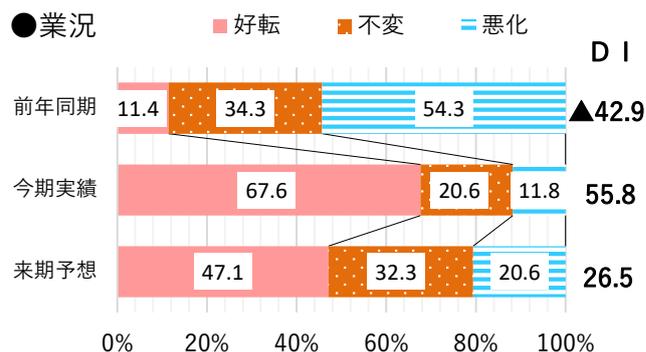
来期（2023.1～3）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。

今期の売上DIは73.5で、前年同期と比べ76.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の採算DIは41.1で、前年同期と比べ95.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

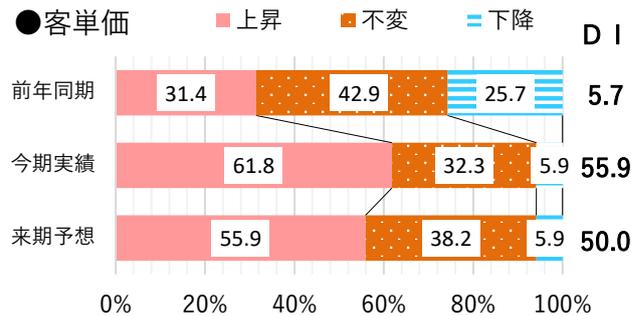
来期は、採算の好転傾向が大幅に弱まると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

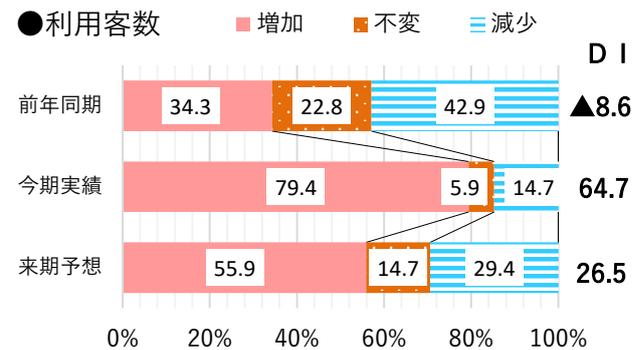
今期の客単価DIは55.9で、前年同期と比べ50.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が続くと予想しています。



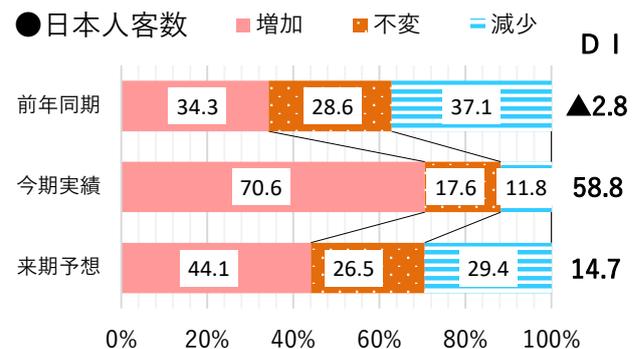
今期の利用客数DIは64.7で、前年同期と比べ73.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



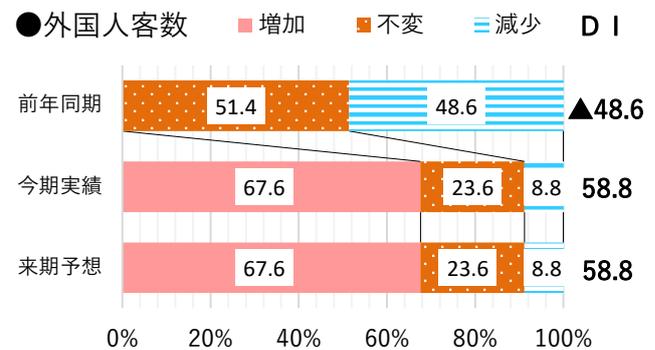
今期の日本人客数DIは58.8で、前年同期と比べ61.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、日本人客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の外国人客数DIは58.8で、前年同期と比べ107.4ポイントと大幅に上昇しプラスに転じました。

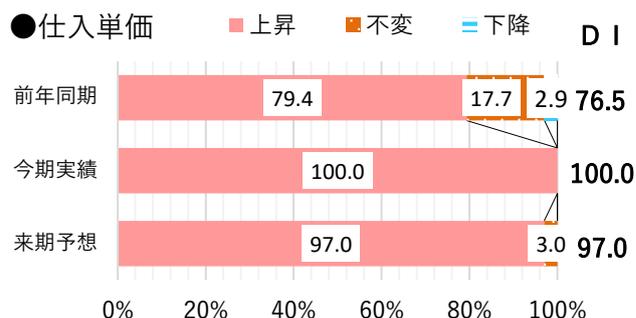
来期は、外国人客数の横ばいを予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは100.0で、前年同期と比べ23.5ポイント上昇しました。

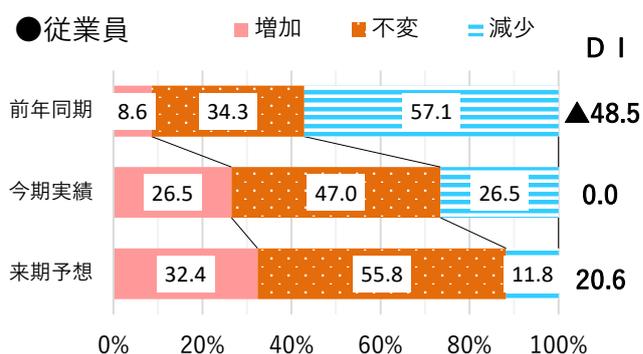
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



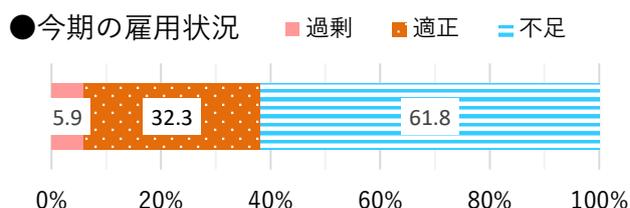
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは0.0で、前年同期と比べ48.5ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.9%、適正であると回答した企業の割合は32.3%、不足していると回答した企業の割合は61.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答で、26.4%でしたが、回答全体では61.8%が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	6
不変だった	過剰	2
	適正	8
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	9

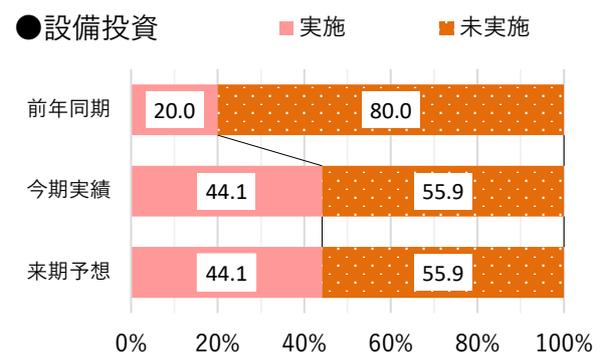
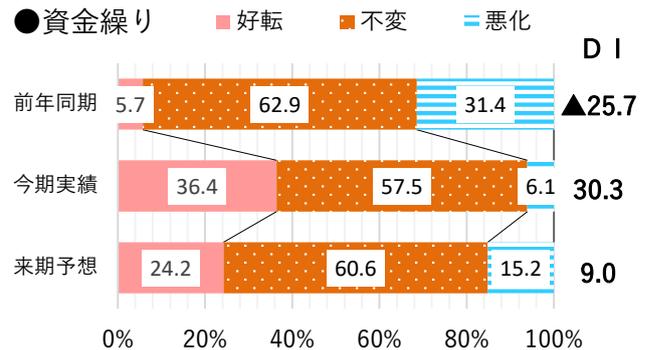
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは30.3で、前年同期と比べ56.0ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は44.1%で、前年同期と比べて24.1%増加しました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は44.1%で、横ばいを予想しています。

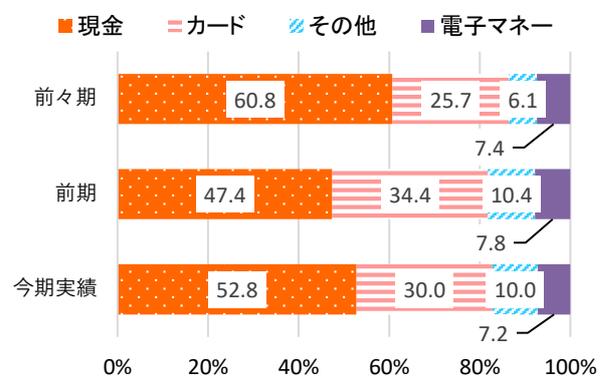


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で52.8%、2位がカードで30.0%、3位がその他で10.0%、4位が電子マネーで7.2%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、銀行振込、クーポン券、掛売り、QRコード決済、ポイント決済です。

●今期利用客の決済方法(%)

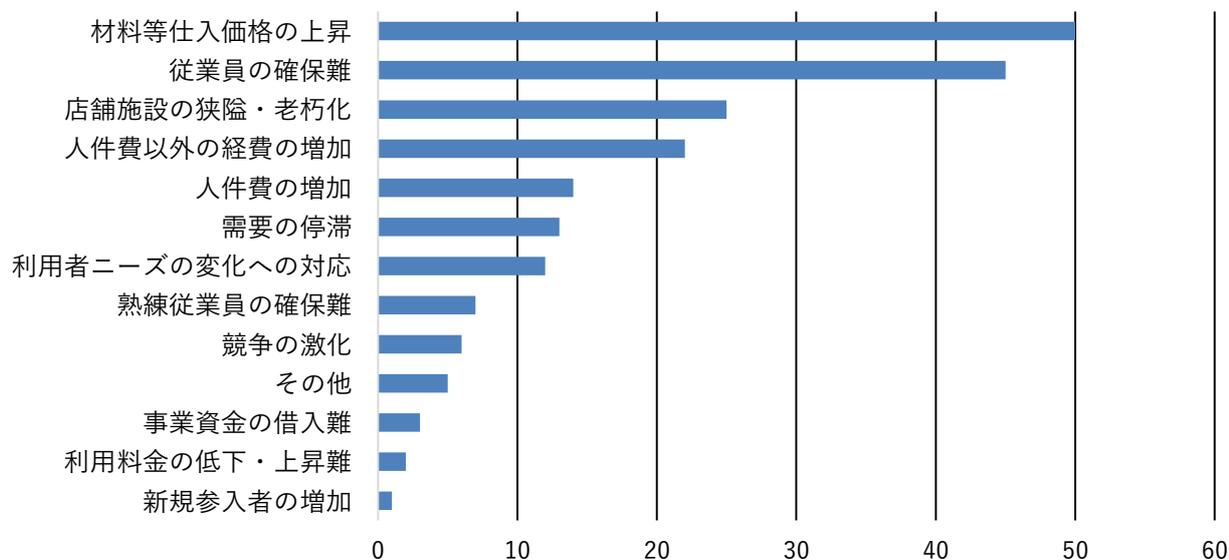


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は63.5%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- インバウンドの増加と、どうみん割や全国旅行支援による国内客の増加で業況は好転した。(ホテル)
- 旅行割やほっかいどう応援クーポン等の需要刺激策の効果で、業況は好転した。(ホテル)
- インバウンドは増加傾向にある。仕入価格は上昇した。人材不足が著しい。(ホテル)
- 施設改装中のため、売上が減少した。(ホテル)
- 全国旅行支援によって売上が増加した。インバウンドが増加傾向にあり、12月は特に増えた。将来の見通しが明るくなってきたと思う。従業員が不足しており、募集しても応募がない。(飲食店)
- 少しずつインバウンドが増え、売上がつながっている。国内観光客も新型コロナウイルスの流行前と同程度来ようになったので、コロナ禍前ほどではないが業績は回復している。(飲食店)
- 全国旅行支援のクーポン、とまっ得おたるのクーポンなど追い風があり、好調に推移している。仕入価格は続々と値上げしており、価格に転嫁している。(飲食店)
- 従業員の新型コロナウイルス感染、濃厚接触によって人手が不足し、休業や時短営業に切り替えた時期があったため、売上が減少した。(飲食店)
- インバウンドが来るようになったが、仕入価格の上昇が続き、厳しい状況に変わりはない。(飲食店)
- 外国人観光客が増加し、高額なメニューが売れているものの、利益は少ない。(飲食店)
- 新型コロナウイルスの感染状況が落ち着かないと、明るい未来が見えない。(飲食店)
- 外出制限がなかったため、売上が順調だった。材料仕入価格が上昇した。(飲食店)
- お歳暮のシーズンのため、贈答品需要が増えた。(土産品)
- インバウンドが増加し、売上が増加した。(土産品)
- 観光客は回復しつつある。(土産品)
- インバウンドの増加により売上が好調だった。冬期のため、ニセコやキロロに向かう利用者も多く、売上が伸長している。(レンタカー)
- インバウンドが増加した。仕入価格が増加した。(レンタカー)
- 売上と客数は昨年同期比で5割程増加した。コロナ禍前の令和元年度同期と比べ、客数は0.91倍、売上は1.02倍だった。(水運業)

- 11月からインバウンドが増加し、売上は増加した。(船舶賃渡業)
- 売上の減少、人件費や各種コストの増加により業況が悪化した。(娯楽業)
- コロナ禍に伴う行動制限が解除され、全体的に好転した。(娯楽業)

[来期の業況について]

- インバウンドがどこまで増えるのか分からないが、宿泊客数は増える見込みだ。原価の高騰に対する価格改定が再度必要だと思う。人材不足が解消される見込みはない。(ホテル)
- 今期に引き続き施設の改装工事を予定しており、売上の減少を見込む。(ホテル)
- 外国人の入国制限撤廃によるインバウンドの増加に期待している。(ホテル)
- コロナ禍が終息し、元に戻ると思う。インバウンドが増えると日本人観光客が減る傾向があるので、土産物店は売上が増えると思うが、飲食店は見通しが立たない。(飲食店)
- インバウンドは少しずつ増えると思うので、業績も回復してほしい。(飲食店)
- 冬の観光シーズンに入るため、インバウンドはさらに増えると思う。(飲食店)
- 仕入価格の上昇が落ち着き、人材を確保できると好転が見込める。(飲食店)
- 消費マインドの冷え込みが心配だ。(飲食店)
- お歳暮のシーズンが終わり、売上は減少するが、春節に外国人観光客が増加すると思われる。(土産品)
- インバウンドの増加傾向が続き、業況は一層好転すると思われる。(土産品)
- インバウンドの増加が見込まれる。(土産品)
- 今期同様インバウンドの増加が見込まれる。さっぽろ雪まつりなど冬のイベントが開催予定のため、レンタカー利用の増加を期待する。(レンタカー)
- インバウンドと道外客の増加を想定している。(レンタカー)
- 客数が回復傾向にあるため、昨年度より増加すると思われる。(水運業)
- 雪あかりの路など、イベントによる日本人観光客の増加に期待している。(船舶賃渡業)
- 冬期営業開始による利用客数の増加が期待できる。(娯楽業)
- 冬期のため大きな改善は見込めない。(娯楽業)